

風のたより 5月号

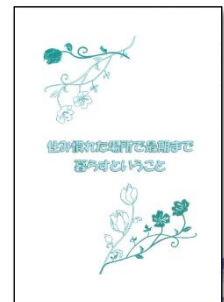
新緑がまぶしく、さわやかな風薫る季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、今月の風のたよりは医務室よりお届けいたします。

特別養護老人ホームは「終の棲家」とも言われています。住み慣れた環境で最期まで「暮らす」ということを目標に、風の家では長年、終末期のケアにも取り組んできました。「終末期」や「看取り」といった言葉も昨今では「終活」という言葉とともに耳にする機会も増えたのではないかと思います。今回はそんな終末期や看取りについてお話をさせていただきたいと思います。

まず、「終末期」という言葉の意味についてです。元々持っていた病気や新しく見つかった病気などの病状が悪化したか、回復の見込みがなく、積極的な治療対象ではないと医師が判断した状態のことです。一般的には、治療をしても回復する見込みがなく、その予後はおおむね6カ月程度とされています。つまり、終末期とは回復を目指す時期というより、苦痛を減らして、その人らしく穏やかに過ごすことを大切にす時期です。

終末期になると食べる量や飲む量が減る、寝る時間が増える、呼びかけへの反応がゆっくりになるなどの変化が見られるようになります。呼吸の仕方が変わったり、痰や唾液の影響でゴロゴロした音が聞こえたりすることもあります。体が少しずつ最期に向かう変化が出てきている状態です。ご家族様としては「何か食べれば元気になるのでは」「点滴を増やせば元気になるのでは」と感じることもあるでしょうが、身体の機能が低下している状態なので、そういった対応は誤嚥や窒息、浮腫みの原因となり、返って本人様には苦痛に感じてしまうことがあります。ご家族様にとってはとても心配だと思いますが、最期が近づいたときにみられる自然な経過の一つです。眠っている時間が増え、返事ができない、反応が弱くなっているなどの状態になっても、触覚や聴覚は最後まで機能していると言われています。そばで声をかけたり、手を握ったり、一緒にいることで安心感を与え、穏やかな気持ちで過ごす手助けができます。ご家族様の声や体温はしっかりと本人様に届いています。できないことが増えても、苦痛を減らし、安心して過ごせるよう支えていくことが大切になります。

看取り期のケア方針は本人様の思いを大切にしながら、ご家族様も含めて一緒に考えていくことが大切です。私たち看護師以外にも、施設ではケアマネージャー、介護職員、栄養士、相談員など多くの職種がそれぞれの専門性を活かしながら本人様とご家族様にとってよりよい終末期を過ごせるようサポートしていきます。この「サポート」には本人様に対するケアだけでなく、ご家族様に対するサポートも含まれています。気になることや不安なこと、迷うことがあればその都度遠慮なくご相談してください。また、施設玄関には終末期ケアについて風の家が作成した「住み慣れた場所で最期まで暮らすということ」というパンフレットも置いてあります。ご興味がある方は自由にお持ち帰りください。



社会福祉法人薫風会 風の家

〒807-0801

北九州市八幡西区大字本城 3378-1

TEL: (093) 695-7000

令和8年5月